

phoraceae の分類学的研究の中で日本産の *Choanephora* の菌株に *C. infundibulifera* の学名を使用した。彼らの記載と図及び日本産の菌株を検討した結果、長西と川上の *C. infundibulifera* は *C. conjuncta* に一致することが判明した。三宅と伊東 (1934) はカボチャの軟腐病の病原菌に新種名 *Choanephoroidea cucurbitae* を与え新属 *Choanephoroidea* を設立した。今回、三宅と伊東の原記載と図に基づいて本種を検討した結果、*C. cucurbitae* を *Choanephora cucurbitaria* の同種異名とし、*Choanephoroidea* を *Choanephora* の同属異名として扱うことが妥当と結論した。

○Materials for the distribution of lichens in Japan (6) 地衣類分布資料 (6)

○*Cornicularia odontella* (Ach.) Röhl. Although the present species represents a circumpolar distribution, being known from Europe, Siberia, and North America, it has been recorded from only one locality (Mt. Iide, Prov. Uzen) in Japan (Sato, Journ. Jap. Bot. 15: 573. 1939 and 16: 117. 1940). Two new localities in Japan are herewith reported for this species as follows. In these localities, *C. odontella* grows on granites in the *Pinus pumila* zone.

Specimens examines. Toyama Prefecture: Mt. Etchusawa-dake, Tateyama Mts., elevation about 2400 m, K. Yoshida 2016 (TNS) and H. Kashiwadan 13406 (TNS). Nagano Pref.: Mt. Kimpu, Minami-Saku-gun, elevation about 2590 m, K. Yoshida 3028 (TNS).

佐藤正巳博士 (1939, 1940) が飯豊山において本種を発見したのが、日本における唯一の記録であった。ところが最近、本州の 2 地点、富山県越中沢岳および長野県金峰山で本種を発見した。何れもハイマツ帯の露出した花崗岩上に生育していた。本種の地衣体は小さく (通常 1 cm 以下)、同じような黒褐色の地衣体をもつクリロトゲキノリなどと混生しているため見逃しやすいが、尾根筋の岩上に広く分布しているように思われる。 (吉田考造)

□広瀬嘉道・横井政人: 原色斑入り植物写真集 (ガーデンライフ別冊) 211 pp. 内 128 カラープレート。1978 年 11 月。誠文堂新光社。¥ 3600。種々な斑入りの写真集と名彙とをかねたもの。はじめに斑の形式を図示し、分類順に写真をおき、リストでは和名と学名及び斑の型列を附記してある。バイラスによるかと思うものは加え、一方、本来斑入りのもの、たとえばカンアオイ、ミヤマウズラなどやオモト、フウランなどは制限乃至除かれている。斑入りは個体を沢山集めれば必ずずといってよいほど見つかるが、さりとてそうは出合わないのが現状。徳川時代には草木奇品家雅見のような類書もあったが、美しい写真と細密な世界的リストが揃ったのははじめてであろう。記事にも中々思い切った方法がのべてあるのも面白い。 (前川文夫)